

奈良 勲, 鎌倉矩子 (シリーズ監修), 梶原博毅, 横井豊治 (編)
《標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野》病理学 第3版
 内山 靖 (名古屋大学理学療法学)

なぜ PT・OT が病理学を学ぶのか、どこまで学べばよいのか

2009年2月に、標準理学療法学・作業療法学シリーズ専門基礎分野『病理学』3版が発行されました。初版が発行された2000年の初版から6刷を経て、2003年に2版が発行されています。その後も順調に5刷を重ね、今般、一層成熟した内容として3版が発行されるに至りました。

病理学は、疾病の原因と病態発生についての学問で、医師にとってきわめて重要な領域です。かつて、臨床系教授が定年になる時期を迎えると、「〇〇教授の誤診率は△△%でした」という記事や話題を耳にするほど、病理学的な診断を基準として臨床能力の一側面を評価しようとする風潮があったほどです。医学教育モデル・コアカリキュラムには、大項目である医学一般の原因と病態として、遺伝子異常と疾患・発生発達異常、細胞障害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍が挙げられています。また、その後の大項目の病態、診断、治療においても病理学の重要性が示されています。

理学療法士、作業療法士は、医療専門職として病理学が重要であることに変わりはありません。他方、医師養成の教育課程と比べて修業年限が異なることや、社会行動学的な知識や技術の修得が期待されるなかで、膨大な学問体系である病理学において、必要な項目を適切に抽出することは教育者にとって重要な役割となります。本編集に当たられた梶原先生と横井先生は、共に理学療法士、作業療法士の教育

に直接携わられた経験と情熱とを生かされ、医師用のテキストを網羅的に簡素化するにとどまることなく、理学療法士、作業療法士が真に必要な項目を厳選した良質な内容となっています。

総論と各論とに大別された各章の構成は初版から変更されることなく、各項目には新しい知見が取り込まれています。このような改版は、確立した学問としての一貫性と常に進歩する要素を取り込む調和と風格を感じさせます。また、科学技術の進歩とはいえ、図表や配色を含めた製作過程の進歩は読者のわかりやすさを高める仕上がりになっています。

各章の終わりには、理学・作業療法との関連事項が記載されています。教員にとって、入学後早期に履修する共通教育や専門基礎分野を学ぶ意味を提示することは重要な役割です。なぜ、病理学を学ぶのか、病理学を知ることによって理学療法、作業療法の何が変わるのかをさらに具体的に提示することは、専門基礎教育と専門教育を担当する教員の共通した課題と言えます。

マニュアルやガイドラインが重用される時代であればこそ、医療専門職の臨床思考過程 (Gedankengang) の中核である現象から原因を同定・究明し、対象者のニーズに応じた現実的な治療・介入を行う問題解決能力の涵養が不可欠です。違いのわかる理学療法士、作業療法士をめざす皆様に、特にお勧めしたい一冊です。

(B5判 320頁 定価 4,600円+税 2009 医学書院刊)